

誰もがいきいきと働き暮らす 共生社会の実現に向けて

電機連合 中央執行委員長

JIMBO MASASHI

神保 政史

国立成育医療研究センター
もみじの家 ハウスマネージャー

UCHIDA KATSUYASU

内多 勝康

新春対談

共生社会の実現に向けて
私たちに求められること

電機連合では、昨年7月に「障がい者支援ガイドライン」を策定し、11月に「障がい者支援シンポジウム」を開催しました。そこでコーディネーターを務めていただいたのが、元NHKアナウンサーの内多勝康さん。NHKの看板アナウンサーとして報道番組「クローズアップ現代」を担当されていた2013年に医療的ケア児の問題に触れ、「大変な苦勞をされているご家族の言葉に衝撃を受けた」と話す内多さん。その後2016年には一念発起してNHKを退職し、現在は医療的ケアを必要とする子どもたちの短期入所施設である「もみじの家」のハウスマネージャーを務め、医療的ケア児とその家族の支援に精力的に取り組まれています。

2023年の新春対談ではそんな内多さんをゲストに迎え、誰もがいきいきと働き暮らす共生社会を実現するために、「今、私たちに何が求められているのか」をお聞きました。

それぞれの立場で 支援に尽力する人たち

神保 明けましておめでとうござい
ます。電機連合では2022年11月
に「障がい者支援シンポジウム」を開
催し、内多さんにコーディネーターを
務めていただきました。今回のシンポ
ジウムは、労働組合や企業あるいは特
例子会社で障がい者支援に関わる方
や、大学で研究をされている方など、
さまざまな方にお集まりいただきま
した。内多さんは皆さんのお話を聞
いてどう感じられましたか？

内多 それぞれの現場で障がい者支
援にご尽力されている方の声を伺え
る大変貴重な機会でした。社会を変
えようと日々努力されている方が多
く、とても頼もしく思いました。

神保 電機連合では、障がい者支援
ガイドラインの策定や、政党・省庁への

現場のリアルな声を 広く発信することが、 私に課せられた役割

政策提言、就労支援など、さまざま
な障がい者支援を行っています。障が
いのある人にとって、一般的な施設や
制度、慣行や観念が就労する上での
障壁となり、平等な機会を得られな
い場合も少なくありません。職場で
直面している障壁を、一人ひとりの状
況に応じて取り除いていく取り組みは、
職場を熟知している労働組合だから
こそできることだと思っています。ま
た、障がいのある方の雇用を促進する
特例子会社では、多くの電機連合
OBが活躍しています。

内多 多方面で活躍している方がい
るんですね。一人ひとりの声を聞き、
それを活動につなげていく姿が印象に
残りました。

神保 まさに電機連合の神奈川地協
の例がその一つです。一人の組合員の「障
がいのある自分の子どものために、組

合も支援をしていただけませんか」と
いう相談から、1972年に障がい
者福祉活動を開始しました。また、
1996年に社会福祉法人「電機神
奈川福祉センター」を設立、知的障が
いのある方などの就労支援を精力的
に行っています。

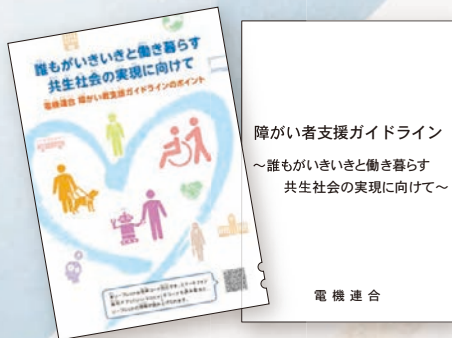
一方で、内多さんをはじめこれだけ
精力的に活動している方が多いにもか
かわらず、なかなか大きなムーブメン
トにつながらないことの難しさも感じ
ています。シンポジウムでは内多さん
から、医療的ケアが必要なお子さんが
増えているというお話もありましたね。

内多 医療の発達により、出生時に
これまで救えなかった命を救えるよう
になりました。ただ、退院して自宅に

UCHIDA KATSUYASU 内多 勝康

東京都生まれ。大学卒業後、アナウンサーとして
NHKに入局。2016年3月に退職し、同年4月より
国立成育医療研究センター「もみじの家」ハウス
マネージャーに就任。著書に『53歳の新人 NHK
アナウンサーだった僕の転職』（新潮社）。





2022年7月に策定。障害がい者雇用の推進と障害がい児・者をもつ家族の両立支援を進めるために、労働組合で取り組むべき項目や障害がい種別ごとの具体的な支援方法などをまとめている。

神保 最近ではセンサーやロボットなどのテクノロジーを活用して、重度の障害がいや肢体麻痺のある方を雇用するといったチャレンジも出てきていますからね。社会に大きなインパクトを与える新しい技術を増やしていくことも、

帰ったあとも継続的な医療的ケアが必要となるケースもあり、医療的ケア児は年々増え続けています。特に最近では人工呼吸器が必要なお子さんが増えており、現在では約2万人いる医療的ケア児の4人に1人が人工呼吸器を必要としています。見た目は少し痛々しいかもしれませんが、最近の人工呼吸器はとてもコンパクトで操作しやすくなっています。これなどは電機産業の皆さんのおかげですね。

電機産業が貢献できる分野の一つと考えています。

内多 皆さんの技術に助けられている人は多いと感じています。ただ、日々の生活でいうと、社会に受け入れ体制がまだ整っておらず、多くの場合、医療的ケア児たちは保育園や学校、児童館などに通うことができません。もちろん他の障害がいがある子どもたちについても同様ですが、医療的ケア児やそのご家族と地域社会の距離をいかに近づけるか。医療や法の整備の問題のみならず、社会として受け止められる環境づくりも大切になるのではないかと考えています。

神保 法整備や地域での環境整備に加え、障害がいのある方たちとその家族を「社会全体で支えていく」という意識と体制づくりが必要ということですね。

地域社会で必要となる体制の整備と意識改革

内多 2021年9月には「医療的ケア児支援法」が施行され、その中にも「医療的ケア児を社会全体で支える」という基本理念が盛り込まれています。とても大切なキーワードですが、同時に抽象的なかけ声だけで終わらせてはいけません。たとえば、人工呼吸器が必要な子どもたちがいきいきと社会生活を送るには、地域社会への医療の浸透が必須条件になります。これまでも身体障害がいや知的障害がい、発達障害がいなど、それぞれの子どもたちの障害がい特性にに応じて、教育現場などではガイドラインに沿った安全な学校運営をしてこられました。それぞれの現場で積み上げられたベースやスキームは素晴らしいものですが、新しい障害がい特性が出て

JIMBO MASASHI 神保 政史

東京都生まれ。大学卒業後、三菱電機株式会社に入社。2002年に三菱電機労働組合連合会 事務局長、2010年三菱電機労働組合 中央執行委員長等を経て、2020年7月より電機連合 中央執行委員長を務める。

職場を熟知している
労働組合だからこそ
できることがある



くると従来のガイドラインが通用しないこともあります。

神保 障がい特性についての正しい知識や、現場の状況に応じた柔軟なガイドラインの変更などが必要になるわけですね。

内多 はい、その通りです。そうした点でも、大きな影響力をお持ちの電機連合さんには、必要に応じた抜本的な法改正などにつながる政策提言や、それぞれの障がいについての正しい知識、現場の実態や対策を啓発するような、具体的な活動をお願いしたいです。

障がい者とその家族のリアルな声を発信する

神保 貴重なご意見ありがとうございます。ぜひわれわれとしても、ご期待に応えられるような活動を行っていきたいと思いますし、そうした現場の声を聞いていきたいと思っています。先ほど

内多さんから全国に約2万人の医療的ケア児がいるというお話がありました。そうした方々の状況はまだまだ知られていないように感じます。

内多 医療的ケアが必要なお子さんの多くは、自宅と病院を往復するだけだったり、遠方の特別支援学校に通われていたり、ご家族を含めて社会と接点を持つことがなかなかできません。社会が共通の問題意識を持つためには、健常者の子どもたちと障がいのある子どもたちが、一緒に遊んだり学んだりという関係性を、幼い頃から育める環境づくりが大切だと思います。

また、医療的ケア児のご家族は普段のケアに手一杯で、自らの思いなどを発信することは難しい状況にあります。社会を変える大きなうねりを生み出すためにも、医療的ケア児が置かれた状況やご家族のリアルな声を広く発信することも、私に課せられた役割だと考えています。そうした活動を積み重ねることで、すべての子どもたちの可能性が広がり、結果として

「誰も

がいきいき

と働き暮らす

ことができる共生

社会の実現」につながる

のではないかと思います。

神保 内多さんのような発信力のある方の存在はとても大きな力になりますね。電機連合としても、組合員の皆さんのみならず、障がいのある方やそのご家族の声を広く聞き、そうした発信のお手伝いができればと思います。

化学変化を起こして、社会を変える大きなムーブメントに

内多 医療型短期入所施設「もみじ



Message for everyone
from UCHIDA KATSUYASU

「子どもを安全に預かってもらう」という当たり前のサービスすら、医療的ケア児を持つ多くのご家族はなかなか受けることができません。本日は、「もみじの家」を利用して心からの笑顔を見せてくれる子どもたちとご家族の思いを背負い、少し偉そうなことも言わせていただきました。社会を大きく変えるためには、オールジャパンの取り組みが必要です。皆さんにはぜひ、その中心となって大きなムーブメントを起こしていただくことを期待しています。

みんなへのメッセージ



もみじの家

医療的ケア児とそのご家族を受け入れ、それぞれの成長や発達に応じた遊びや学びの体験と医療ケアを提供する、国立成育医療研究センター運営の医療型短期入所施設。

ご支援・ご寄付・お問い合わせ

<https://home-from-home.jp/>

の家」が2016年に誕生し、私としては運命的なものを感じて現在の仕事をしています。現場経験のない私をハウスマネージャーというマネージメント職として招いてくれたのは、やはり情報発信力への期待が大きかったから。ですから今は、全力で外に向けた発信に取り組んでいます。私のような畑違いの人間を入れることは勇気が必要だったと思いますが、現在はそのような組織や業界でも外部の視点が重要になっているように感じます。障がい者支援の問題でも、彼らをみんなで支える社会を本当の意味で実現するためには、従来の考え方や文化をフルモデルチェンジするくらいの覚悟が必要になります。

次々に出てくる課題を解決するためには、違う発想やノウハウを持った人たちをどんどん巻き込むことが大切です。今回の電機連合さんとのつながりもそうですが、外部の方々と連携する中で生まれる化学変化の一つひとつが、社会を変える大きなムーブメントにつながればとても嬉しく

思います。

神保

本当にその通りですね。電機連合としてもこうしたつながりを大切に、誰もがいきいきと働き暮らせる共生社会の実現に向けて、障がい者支援に共に取り組んでいきたいと思っています。最後に、内多さんが私たちに期待されることをお聞かせください。

内多

医療的ケア児支援法が施行され、国としては医療的ケアが必要な子どもたちを「社会で支える」というメッセージを出しました。今後はより具体的に、各地域でどのような政策を立て、どのように実践していくかというフェーズに入っていきます。現在は医療的ケア児・者の家族会をつなぐ全国的なネットワークもできており、当事者や現場の声が聞きやすくなっています。電機連合さんには自ら発信が難しい方々の声にも耳を傾けていただき、状況に合った政策提言などにつなげていただければありがたいです。

組合役員の皆さま

Message for everyone from JIMBO MASASHI

障がい者支援シンポジウムに続いて貴重なお話が聞けました。内多さんからご指摘いただいた当事者の声を拾い発信することなどを参考に、皆さんの組織においても職場の環境整備など、今一度振り返って再点検いただければと思います。

また、内多さんからもお話があったように、現在は社会全体が大きな転換点にあり、だからこそ一歩を踏み出すチャンスでもあります。障がいのある方やその家族を支援し、誰もがいきいきと働き暮らせる社会となるよう、ぜひ皆さん一緒に取り組んでいきましょう。

